

埼玉大学文化科学研究科修士課程学位論文・特定課題研究成果要旨

研究専攻（専門領域）		日本・アジア研究専攻		学籍番号	02CS005
氏名	岡崎 貴志	ローマ字	OKAZAKI Takashi	国籍 (留学生)	
修士学位 論文名 特定課題研究名	中国文化大革命期の「人民画報」における政治宣伝の研究				
提出年月日	2008年 1月10日		指導教員	小谷一郎	
体裁 (論文)	36ページ 表紙含む(1頁文字数 1600字)		言語	日本語 (中国語含む)	
別冊添付資料等	写真図版65枚				
キーワード	文化大革命・毛沢東・紅衛兵・人民画報				
<p>中華人民共和国建国以降、1966年から1976年の10年間は、「文化大革命」と呼ばれる「内乱」に等しい時期であった。</p> <p>60年代に入って大躍進政策の失敗や、中ソ対立を背景にして、自分の党および国家での立場を再浮上させるために“ブルジョア反動思想”の批判を展開、それを徹底拡大させるために文革を発動したのであるが、その後多数の死者、犠牲者や政治的混乱、冤罪事件を発生させ、また経済は停滞し、さまざまな損失をこうむり、自身でもその運動をコントロール出来なくなる。それは毛の文革に対する理論面や情勢判断等に大きな問題があったためであるが、理想の社会主義国家建設の目的も果たせぬままに、76年その死によって文革は終結した。</p> <p>正式には“プロレタリア文化大革命”と称されるこの運動が人々に及ぼした影響が大きいことは周知の事実である。いったいどのような時期であったのか、それについて論じた書物は多数ある。「文化大革命」略称「文革」終結後、10年ほどしてから中国国内においてもそれについて真正面から論じる動きも出てきた。主に政治の面から書かれるのは当然のことであるし、重要人物の回想録や、その時代に書かれた書物を通しての研究は多く見受けられる。また、文革期の各種グッズやアートを研究の対象としたものもある。</p> <p>「文化大革命」略称「文革」終結後、10年ほどしてから中国国内においてもそれについて真正面から論じる動きも出てきた。主に政治の面から書かれるのは当然のことであるし、重要人物の回想録や、その時代に書かれた書物を通しての研究は多く見受けられる。また、文革期の各種グッズやアートを研究の対象としたものもある。しかし、文革を通史的に、またビジュアル面から捉えたものは数が少ない。そこで当時中国において一般的なグラフ紙である「人民画報」(日本では「中国画報」として出版)を定点観測して、現在文革通史として編纂されている、事実即した年表的なもの、政治宣伝ではどのように異なるのか、または事実としっかり重なる部分があるのかを調べてみるということを考えてみた。埼玉大学教養学部には、幸いにして人民画報十数年分が所蔵されている。中国語版、日本語版、英語版と版は違うが、文革期はほぼカバーしているので、その文革期の政治運動や事象の主だった画像を牧研究室のデジタルカメラで撮影し、通史的な、「目で見る文革史」を作成してみた。</p>					